ドイツ営業所レポート　Vol.11

皆様　お元気ですか　2020年以降コロナで世の中の様相が変わってしまってから二回目の新年となりました。まだまだ自由に欧州旅行できる状況にありませんが、ドイツ旅行気分を感じられるような話題をご報告します。ガイドブックにはないお話です。

ディズニーランドのお城のモデル、ドイツ観光のハイライトとして有名なノイシュバンシュタイン城ですが、このお城はかってドイツ南部のバイエルン王国に君臨したヴィッテルスバッハ家のルードイッヒ二世王が建設したものです。彼の死後、お城はバイエルン王国の財産とされ、一般公開されるようになります。お城の建設資金は王国の財政からではなくヴィッテルスバッハ家の財政、つまり私有財産から賄われたことを理由にヴィッテルスバッハ家は返還訴訟を起こします。王家の財産も元はといえば税金なので裁判は泥沼化し、結局お城はバイエルン王国のものとなり、麓のルードヴィヒ二世の生家である　ホーエンシュバンガウ城だけがヴィッテルスバッハ家に返還されます。

王様の無駄遣いと言われた建設資金は公開後わずか6年で回収できたそうです。当時戦争で借金のかさんでいたバイエルン王国では、財政の行き詰まりをすべてルードヴィヒ二世の責任として幽閉し、翌日彼は暗殺とも考えられる不可解な最後を遂げますが、浪費王どころか、今日ドイツのドル箱観光施設を作った王様に対して、バイエルン州もさすがにバツが悪いと思ったのでしょう、1923年以降ヴィッテルスバッハ家に対して毎年補償基金1400万ユーロ（約18億円）を支払っています。中世オタクだったルードヴィヒ二世ですが生まれは1845年、亡くなったのは1886年、日本では明治20年頃です。王様が亡くなったという知らせが森鴎外の作品中に描かれていますが、当時ドイツ留学中の森鴎外の実際の体験に基づくもので王様はルードヴィヒ二世のことを指しています。中世風のお城は、ほんの140年前に作られていたわけです。

ノイシュバンシュタイン城と並んで、小都市ローテンブルグもおすすめです。バイエルン州が売り出したロマンチック街道という観光ルートのハイライトです。中世から近世への時代の流れで、永らく地政学的重要性のない小村でした。近世になり鉄道が開通してアクセス性が向上し、中世の街並みの残る市街が新たな観光資源として注目を集めました。日本の有名旅行ツアー会社によるプロモーションが世界的知名度の向上にも貢献しています。

中世の三十年戦争時代（1518－1548）、スウェーデンの将軍が都市を包囲し、「街を焼き払う」と降伏を迫ります。そして誰かこの瓶一杯のワインを一気に飲めれば焼払うのは止めるとムチャぶりを言い出します。そこで手を挙げたのがヌッシュ市長です。
瓶は今日4リッター以上だったと推察されています。市長は瓶一杯のワインを飲み干し街は焼き払われずに救われました。めでたしめでたし。市庁舎の仕掛け時計では毎時将軍と市長が窓からその状況を再現してくれます。ワイン大好きの大酒のみの市長が和平交渉に成功した、というのが実際のストーリーだと推察されます。ドイツ国歌の一節では、ドイツのワインは最高だ、と唄われています。そんなことを納得できるエピソードですね。
街は第二次大戦の爆撃で半分が破壊されてしまいます。工場のある近くの別な街と間違えた誤爆だったそうです。戦後世界各地から援助金が送られ、中世の街並みは見事に復元されました。
いかがでしたか、またヨーロッパを自由に旅行できるようになったらドイツに行きたいなと思って頂ければ幸いです。

ノイシュバンシュタイン城　夏

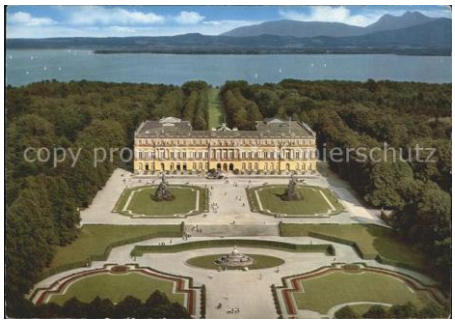
ノイシュバンシュタイン城　冬

王家に返還されたホーエンシュバンガウ城

長身でイケメンだったルードヴィヒ 2 世

やはりルードヴィヒ二世が建設したリンダーホーフ

王様は庭園内に人工的な洞窟を作って白鳥型のボートを浮かべて閉じこもったそうです。　引きこもりの元祖ですね。



左　ベルサイユ宮殿を超える城が欲しかったので実現した。ヘレンキムゼー城

右　ルードヴィヒ二世が参考にした本物の中世のお城　バルトブルグ城　宗教改革で有名なマルティンルターが 10 か月隠れていたことで有名です。

左　ドイツのガイドブックの表紙によく使われるこの場所はローテンブルグにあります。
右　市庁舎の壁の赤い日時計の左右の窓が毎正時に開いて左に降伏を迫る将軍、右にヌッシュ市長の人形が現れます。数分かけて市長がワインを飲み干す様子が再現されます。
こうしてローテンブルグ市民は街を救ってくれた市長に毎日感謝を表しています。

夏祭りでは寸劇でヌッシュ市長の一気飲みが再現されます。